

ベネズエラの民主主義に対する攻撃



レオナルド・フローレス

2024 年 8 月 1 日

ソース: [ベネズエラ連帯ネットワーク](#)

[An Attack on Venezuela's Democracy - Venezuela Solidarity Network](#)

ベネズエラでは 7 月 28 日の大統領選挙のあと、クーデターお企てのなかで大規模なサイバー攻撃や世界的な偽情報キャンペーン、武装集団などが起こっている。10 人の候補者が競い合った選挙の結果は、マドゥロ大統領が 51.2% の票を獲得し、野党指導者エドモンド・ゴンザレスの 44.2% を上回り、80% の票が集計された。残りの 8 人の候補者は合わせて 4.6% だったが、すべての間違っただ理由で物議を醸しだしている。ゴンザレスと彼の極右同盟者たちは、結果を否定し、不正を主張した。

何ヶ月もの間、ベネズエラ政府は、これらの選挙に対する極右の戦略を非難してきた。仲間の世論調査員を使って、非常に不正確な世論調査を広め、ゴンザレスを支持する。選挙が行われる前に、選挙を非難する。結果が発表される前に結果を非難する。そして、2014 年と 2017 年と同様の暴力的な街頭抗議行動を引き起こすことなどだ。(Guarimbas)。

予想通り、極右はソーシャルメディアや伝統的なメディアに不正の物語を流し込み、選挙後の数日間、武装したギャングや準軍事組織がテロの種をまき、公的機関や治安部隊、無実の傍観者を攻撃した。チャベス主義は、選挙結果を支持し、暴力に反対するために、カラカスでの大規模な集会で応えた。

緊張は残っているが、政府はクーデターを鎮圧したように見える。ベネズエラの全国選挙評議会(選挙を単独で担当する政府の独立部門)が選挙当日の夜に大規模なサイバー攻撃を受け、7月31日現在もウェブサイトに影響を与え続けているという事実により、状況は複雑になっている。

ベネズエラの選挙プロセスとサイバー攻撃

ベネズエラの選挙プロセスに詳しい人なら誰でも、開票の不正疑惑に懐疑的であることを知っているだろう。このプロセスは、12年前にジミー・カーターが「世界最高」と称賛したのもので、その安全性と透明性で有名だ。ベネズエラアナリシスによるこの2分間のビデオは、詐欺がほぼ不可能である理由を最もよく説明しているものの1つです。

全国選挙評議会(CNE)は、5人の学長からなる評議会によって主導されている。現在、3人は政府と連携し、2人は野党と連携している。もし不正が蔓延していたのなら、なぜCNEの野党メンバーは沈黙を守ってきたのだろうか？

不正の主張を理解するための鍵は、投票が締め切られると、投票機がローカル結果(actas)を印刷してからCNE本部に送信し、完全なデジタル集計を行うことだ。アクタのコピーは、各選挙区に出席した任意の政党の証人に与えられる。

選挙に先立ち、マドゥロ大統領を含む8人の候補者が、結果を尊重することに同意する協定をCNEと署名した。ゴンザレス候補はそれを拒否し、彼の党はCNEの結果に従わず、むしろ自分たちの行動だけを認めると述べた。actaの写真やスキャンが本物であることを確認する唯一の方法は、他の政党が発表したactasやCNEのローカライズされた結果と比較することだ。

これは、CNEへのサイバー攻撃によって妨げられている。CNEの技術者によると、ハッキングは投票数を変更することはできなかったが、結果の送信を遅らせたという。これは、CNEが結果に関する最初の報告書を予想よりも遅く発表し、他の選挙では投票から1日かそこらでウェブサイトに掲載されたactasの公開を遅らせたことを意味した。

この遅延は、野党が選挙を不正であると決めつける上で決定的だった。ニューヨーク・タイムズ紙は、彼らの詐欺の主張に信憑性を与えるために、野党の疑惑の分析を掲載した。しかし、現時点では、これらの行為が本物であると信じる理由はなく、極右の反対派が結果について嘘をついていると信じるあらゆる理由がある。彼らは、2004年、2013年、2017年、2018年、2023年の選挙で、信頼できる証拠を提示することなく、不正を訴えた。彼らの主張を裏付ける実際の証拠は提示されていない。

偽情報キャンペーン

選挙の数ヶ月前、野党とつながりのある世論調査員は、ゴンザレスが圧倒的にリードしていると主張した。これらの世論調査員は、野党に有利な偏った歴史を持つ。2018年の大統領選挙では、彼らは平均 26 パーセントポイント間違っていた。

投票日、野党は、CIA とつながりのあるアメリカが資金提供する企業による出口調査を広く広めた。ベネズエラでは、出口調査が2004年の国民投票後、国を不安定化させるために利用された後、禁止されている。この世論調査は、主流メディア、極右工作員、政治家によって、CNEの結果が不正であったことの「証拠」として引用された。ベネズエラ政府に友好的と見られている企業、ヒンターレース社による別の出口調査が、結果の予測にかなり近づいていたことに注目していただきたい。

7月31日の時点で、野党は81%以上のアクタを保有しており、ゴンザレスがマドゥロに対して67%対30%の勝利を収めたと主張した。彼らは、自分たちの主張する行為を巧妙なウェブサイトにアップロードし、これが長い間準備されていたクーデターであったことをさらに示した。一方、マドゥロ支持連合は、7月31日にアクタを発表する予定だった。

野党の人物たちは、ゴンザレスの地滑りの勝利と、マドゥロ政権が犯したあからさまな詐欺の物語を煽った。これをきっかけに、主要なボットネットワークとAIを使用したソーシャルメディアキャンペーンが行われ、詐欺の主張が増幅され、フェイクニュースが悪用された。偽情報の拡散に加担した人々の中には、イーロンマスクやベネズエラでのクーデターを呼びかけたアルゼンチンのミレイ大統領がいる。

結果に関する偽情報とフェイクニュースの集中砲火は、クーデター未遂の次の段階、つまりファシズム的な準軍事組織と武装ギャングによる暴力の舞台を整えた。

暴力と武装ギャング

28日の深夜、野党の抗議者たちは、極右の指導者たちによって街頭に呼び出された。平和的な抗議行動もあれば、そうでない行動もあった。ソーシャルメディアの偽情報は、平均的な市民が治安部隊によって残忍に扱われている混沌とした絵を描きました。

ソーシャルメディアの例は多すぎて選べないが、2つ注目する。

1. 右翼の職員は、警察官が女性とその子供に銃を向けたと主張した。事件のビデオには、彼が腕を持ってその地域から立ち去るよう促す様子が映っている。
2. 路上では、友人の死を泣き叫び、殺人の責任を警察に負わせるが、その隣の地面には「血」が散らばっている。事件のビデオには、男性が生きていて元気で、オートバイで友人の後ろに座っている様子が映っており、前輪の隣の通りには「血」が残っている。

いくつかの素晴らしいスレッドが、このリンクにあるものを含め、よりひどい例のいくつかを文書化している。

選挙の翌日、準軍事組織と武装ギャングは建物を燃やし、CNEの地域本部を略奪し、道路を封鎖し、警察と軍を攻撃し、「チャベス派」に見える人々を殴打し、病院を攻撃しようとし、コミュニティラジオ局と学校を燃やし、チャベスと先住民指導者の像を破壊した。とりわけ、地元コミュニティの指導者、軍事施設、食料配給センターを攻撃した。

この一連の暴力で何人が殺されたかは不明である。

ギャングのメンバーは、7月28日の詐欺の主張を含め、「カラカスでのマリア・コリーナ・マチャドの活動」(リンクのおよそ31分40秒)に参加するために150ドルを受け取ったと主張し、7月29日に街頭に出て被害と騒乱を引き起こし、「大虐殺」を引き起こしたと主張している。選挙前に、マドゥロは、極右が権力を掌握しようとするれば大虐殺が起こると示唆したことで、商業マスコミで広く非難されたことに留意されたい。

ベネズエラ政府は、暴力的な行動者の一部が、世界中の傭兵やテロリストが焦点を維持するために使用する覚醒剤であるカプタゴンで逮捕されたと報告している。

マドゥロは、クーデター未遂におけるアメリカの役割について、さらに深刻な主張をした。国務院の会議で、彼は、暴力の加害者たちは「我々がアメリカ合州国に移民を乗せることを許可した飛行機で[ベネズエラ]に入った。それはアメリカ帝国外交における戦略作戦だった。(過去 1 年間の両国間の対話の一環として、ベネズエラは米国からの国外追放飛行を許可した)。

マドゥロ大統領はまた、暴力は「米国とコロンビアの麻薬密売によって資金提供された」と述べた。選挙に先立ち、コロンビアの準軍事組織は、ベネズエラで攻撃を実行するよう極右から接近されたと報告した。さらに、先月、野党のカルロス・ブロスペリは、右翼の工作人員や政治家が、アメリカ政府がベネズエラ国家から盗んだ資金から、毎月最大 9,000 ドルを得ていると述べた。

7 月 31 日現在、暴力はほぼ終結しているが、偽情報キャンペーンは続いている。

なぜマドゥロが勝ち、極右が負けたのか

偽情報キャンペーンの中心にあるのは、マドゥロが勝つ可能性はなかったという考えだ。この物語の重要な要素は、何十年にもわたる、チャベス派を見えなくする組織的な試み、つまり、この国で最大の政治勢力が単に存在しないふりをする事だった。

商業マスコミは、選挙前と選挙後の政府支持の大規模なデモを、めったに見せない。欧米のシンクタンクは、チャベス主義の様々な層における組織の深さや、これらの層間の相互作用が、票を得るための手ごわい機械を生み出すだけでなく、危機の瞬間(連邦、州、地方自治体、政党、コミュニオン、その他の人々の力の表現)に街頭で動員する仕組みを決して分析しない。

これが、マドゥロが投票の 30% (彼らの数字によれば 320 万票)しか獲得しなかったという野党の主張が信憑性を欠く理由の一つだ。2018 年の大統領選挙では、マドゥロは 620 万票を獲得して勝利した。それ以来、ベネズエラは 3 年半連続で経済成長を経験してきた

した。インフレは抑制されており、歴史的に低い水準にある。現在、消費される食品の96%は国内で生産されている。起業家精神の大ブームがおきている。そして経済は、IMF がラテンアメリカで最も高い成長を遂げると予測している。

その上、ソーシャルプログラムが強化されている。住宅ミッションは、510万戸の威厳ある公営住宅の供給を受けた(1世帯あたり3~4人を想定すると、人口の50~66%がここに
いる可能性がある)。地元の供給生産委員会(CLAP)は、毎月何百万もの家族に割引または無料の食品を配布し続けており、これにより米国による最悪の制裁期間中の飢饉を防げた可能性がある。

チャベス主義の基盤は活性化され、PSUV 自体には500万人以上のメンバーがいる。実際、市場でさえ、選挙に先立って、政府と別の石油取引を結んだシェブロン同様、マドゥロに賭けていた。

一方、野党はひどい選挙戦を展開した。エドムンド・ゴンサレスは、めったに選挙遊説に出ず、その代わりに、彼の代理人マリア・コリーナ・マチャドが代表を務めた - ワシントンの全面的な祝福を受けた最新の野党人物だ。石油産業から公営住宅まで、あらゆるものを民営化するという彼らの計画は、90年代の新自由主義的ショック療法に深く精通している人々の共感を呼ばなかった。アルゼンチンのミレイとイスラエルとの密接な関係は、アルゼンチンの経済危機とパレスチナでの大量虐殺を見ている人々の間では共感しませんでした。

野党党首のエンリケ・カプリレスは、大統領選で2度の敗北を喫し、引き続き主要なプレーヤーであり続けているが、ゴンザレスの選挙運動を「彼がこれまでに見た中で最悪」と特徴づけた。選挙前の数日間で、2人の野党知事と12人近くの市長がマドゥロへの支持を反転させた。前述のプロスペリは、今年の野党予備選挙に実際に参加したのは、広範な不正(マチャドが信憑性のない92%の票を獲得した予備選挙)を非難するためだけだったが、マドゥロへの支持も反転させた。野党指導者たちは、勝利が手の届くところにあると信じているのに、なぜこのようなことをするのだろうか。

米国および国際的な対応

マドゥロの勝利は、中国、ロシア、キューバ、ニカラグア、ボリビア、ホンジュラス、カタールなど、数十カ国や、OPEC やアルパ(米州ポリバル同盟)などの多国間組織によって認識されている。一方、アルゼンチン、チリ、パラグアイ、ウルグアイ、コスタリカ、ペルーなどは、選挙を認めることを拒否した。事実上の独裁者ディナ・ボルアルテが率いるペルーは、ゴンサレスを大統領(マドゥロはグアイド 2.0 と呼んだ)として認めるところまで行った。

ブラジル、コロンビア、そしてある程度メキシコも、ベネズエラの主権を大小(コロンビア)の度合いまで守る「様子見」の戦略的な役割を果たしている。彼らは、バイデン政権の対応を緩和するよう影響を与えようとするような立場にあるようだ。

米国の行政府の混乱が、バイデン氏、ハリス氏、プリンケン国務長官の発言の相違につながったことは驚くに値しない。最初に宣言したのはハリスで、日曜日にツイートで、米国は「より民主的な...ベネズエラにとっての「未来」、極右が敗北したことを認めていると広く解釈される発言をした。その後、プリンケン国務長官は「発表された結果がベネズエラ国民の意思や投票を反映していないという深刻な懸念」を表明した。しかし、7月30日、バイデン大統領はブラジルのルーラ大統領との会談後、投票データの公開を求め、不正の物語を支持するまでは至らなかった。

クーデター未遂の起こりうる結果

アメリカ政府内のこの分裂は、クーデター未遂の考えられる理由、つまりアメリカとベネズエラの関係の毒化を示している。過去1年間、アメリカ合州国はベネズエラとの対話に関与し、特定の「選挙保証」と引き換えに、石油制裁を部分的に緩和した。クーデターの試みは、バイデン政権がベネズエラからの圧力を緩和する政策を継続することを困難にするだろう。それはまた、マチャドと彼女の同盟者たちに、政権転覆の努力を続けるために、アメリカの口座に保管されているベネズエラの資金を受け取り続けることになる、実質的な利益にもなるだろう。

ベネズエラでは、CNEの結果が投票用紙の領収書と一致すると確信しており、選挙の完全性が確認されている。犯罪分子が逮捕され、軍は憲法と選挙への支持を繰り返し表明している。

クーデターは終わったように見えるが、それが制裁の強化や長期化につながるとしたら恥ずべきことだ。本当の「不規則性」は、ベネズエラ人が耐えてきた10年にわたる経済戦争だ。彼らは、自分たちの生活が再びひっくり返り、家族が予防可能な状況で亡くなったり、経済難民として去ったりする脅威にさらされながら投票した。脅迫にもかかわらず、彼らは極右の候補者を拒否し、平和に投票した。ワシントンのタカ派は、彼らに投票の代償を払わせるために、できる限りのことをするだろう

(了)

【翻訳チェック 田中靖宏】